

友の会通信

2008
Vol.
19

～群馬県立自然史博物館友の会～

「赤城山の植物観察会」

期日:8月2日(土)

場所:赤城山覚満淵周辺



6月29日計画の植物観察会は、豪雨のため8月2日に延期し実施しました。参加者は事務局を含めて15名、講師は昭和天皇に覚満淵の植物を説明された里見哲夫先生でした。

覚満淵のミズナラ林の縁では、マント群落やそで群落、群落を構成する植物などについて、林の中ではミズナラ・オオイタヤメイゲツなどの葉の特徴、ミヤコザサ等について説明を受け観察しました。覚満淵の草地は花が少ない時期でしたが、キオン、ヤマハタザオ、ウツボグサ、クサタチバナ、ヤマニガナ、ワレモコウ、ネバリノギラン・・・などの花が見られました。花が少ないため小さな花も注目され、講師の適切な説明もあり、参加者の目が植物に集中する観察会でした。(20-149 堀越武男)

参加者の声

●歩きやすい場所で、間近に植物を観察することができました。里見先生手作りの植物標本や資料などを使いながら、目の前の樹木や草花について楽しく、わかりやすく説明していただきました。心に残るたくさんのお話をありがとうございました。

(20-117 北川真理子)

●友の会行事に初めて参加しました。参加された皆さんがとても熱心で、その雰囲気にも引き込まれ、あっという間の観察会でした。里見先生も植物のことばかりでなく、赤城まつわる昔話などを織り交ぜて話してくださったので、とても楽しい時間が過ごせました。機会があればまた参加したいと思います。

(20-096 金子正明)

●70種にも及ぶ植物を観察したり、モウセンゴケの可憐な白い花を見ることができたりして大変素晴らしい観察会でした。小中学生をはじめ、もっと多くの会員の皆さんに参加していただけたよかったです。

(20-150 堀越友子)

●居住地から離れている割に、身近な場所でした。内容も広く浅くでなく、深まりがあり、大変参考になりました。また、樹木の種類、名称、生育場所等のことを知るよい機会となりました。

(20-092 徳江 紀)

●覚満淵付近には幾度となく出かけていますが、このように専門家による話を聞きながら見ることができたのは初めてで、新しい見方ができるようになりました。楽しく学べ、あっという間の2時間半でした。私にとっては一生忘れられない思い出となりました。

(20-008 三友賢一)

●群馬県の植生がミヤコザサ線を境に二大地域に区分できるという説明や、カシワとミズナラの雑種(ナラガシワ)の話がとても興味深かったです。会員の方々と和気あいあいと観察でき、楽しい一時を過ごすことができました。

(20-018 吉田るみ子)

平成20年度「友の会」総会開催

5月11日(日)参加者28名

平成20年度の総会が、5月11日(日)午後2時から博物館学習室で行われました。総会では、昨年度の事業報告及び決算報告、今年度の事業案並びに予算案、友の会規約の一部改正について審議されました。その中で決定した主な事項を報告します。

★友の会規約一部改正について

第3条(事業)

現行

- (1) 視察研修 (2) 体験学習 (3) 観察会
(4) ミュージアムショップ運営 (5) その他

改訂

- (1) 視察研修 (2) 体験学習
(3) 友の会通信発行 (4) その他

第4条【追加】

業務を遂行する上で、必要とされる場合、会員に実費相当額を支給することができる。ただし、その場合運営委員会の承認を必要とする。

★平成20年度友の会役員について

今年度は、事務局2名が変わりました。会長を初め、他の役員については変更はありません。今年度は、下記の役員となりました。よろしくお願いします。

平成20年度 役員 事務局

【会長】池下 隆雄
【副会長】川原 英雄
西田 隆良
【監事】山田 利和
徳江 紀

【運営委員】森平 利政
角田 寛子
袖木 郁
堀越 友子
堀越 武男
北川真理子

【顧問】横田 英一
青木 道雄
原 浩一郎
【事務局】吉岡 紀康
松本 功
武井 郁也

友の会講演会

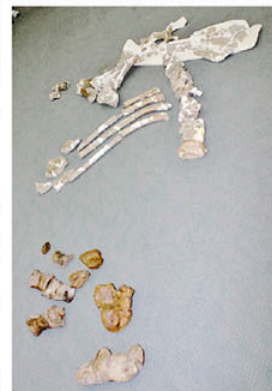
毎年恒例の長谷川善和館長による講演を総会後に行いました。毎年、この講演を楽しみにしている会員の方も多く、今年も多くの方々に参加しました。

今年度の講演は、『富岡層群(旧)の2つのパレオパラドキシア』というテーマで行われました。パレオパラドキシアとは、「古くて矛盾だらけのもの」という意味で、最も謎に満ちた古生物のひとつといえます。当館常設展示室Aコーナーにも展示されていますが、特徴としては、ややふくらんだ円柱を束ねたような臼歯を持っていることです。

館長は、富岡層群から発見された2つのパレオパラドキシアの化石を大胆にも演台の前の床に広げ、参加者を驚かせました。参加者からは、「本物はすごい」や「こんなに大きいなんてビックリ」など、感動の声をたくさん聞くことができました。そして、講演も後半になると、参加者が化石に近寄り、実物化石を目の前にしながらいろいろな質問をすることができました。例えば、「牙があるのか?(ゾウと同じような棒状のものがある)」や「何を食べていたのか?(植物を中心に食べていたが、あごがシャベル型で、歯は平なので貝のようなものも食べていたと思われる)」などができました。



最後には、館長が今期待することについて話されました。それは、鏑川周辺からパレオパラドキシアの大きな頭の化石が発見されることです。「時間のあるときに化石を探してみませんか。是非、パレオパラドキシアの歯や頭の化石を探してください。」と講演を締めくくりました。



友の会会員からのおたより



～国蝶オオムラサキの色調の謎～

だいぶ前のことだが、青倉平原の谷間で、科学部の生徒が珍しい蝶を採取したことがあった。翅全体が紫色をした美しいオオムラサキの雄で、光の当たり方で微妙な色調を示した。オオムラサキの幼虫はエノキの葉を食草とし、成虫はエノキの葉に卵を産み落葉と共に地上に移る。枯れ葉の下で越冬し5月頃にはエノキに登り摂食し7月から8月に成虫となる。日本の代表的な蝶で日本各地に広く分布する。大型で特に雄は体が大きく紫色に輝く。実際に翔ぶ姿は大きくて光に当たると微妙な色調をみせる見事な蝶であった。

「この色調は何から起こる現象であろうか?」「りん粉の並び方?りん粉の中の構造?」

オオムラサキは科学部員に多くの疑問を投げかけてくれた。この事が動機で部員とオオムラサキの色調について研究した。

オオムラサキの前翅・後翅それぞれ二枚を区別して、りん粉の並び方・大きさ・形状・溝の数などについて顕微鏡・接眼マイクロメータ・対物マイクロメータ等を使用して調べてみた。りん粉は基本的にコスモスの花びらのような形で、先端の切れ込みや形、幅の広さは多様であった。りん粉を高倍率で見ると平行な溝が満遍なくあり、「この溝が微妙な色調をかもしたのではないだろうか」と仮説をたてて実験を進めた。

回折格子による光の干渉は1cm中に600～1700本もの溝をつくると見られる構造である。オオムラサキのりん粉の溝は縁の部分のりん粉を除いては、1mmの中に300本以上の溝を持ち、特に紫色のりん粉は500本以上あり、回折格子の役割をするのに充分な条件であった。この溝が回折格子の役割をして光を散乱させ、回折された光は互いに干渉し合い強めあったり、弱めたりして微妙な色調を出していることが解った。暗室で翅に光を当ててみると、角度により明暗ができ色も微妙に関わり美しい色調をだしている。紫色の部分は光の回折現象が最もよく見られた。あの美しさと生徒の輝く瞳は今でも忘れられない。

(20-150 堀越友子)



～芝生、雑草園そしてネコ～

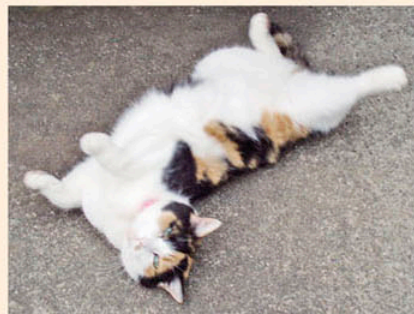
今、住んでいる家に越してきたのは30年前。青々とした芝生の庭を夢見て芝の植え付けをしました。雑草の手入れも怠らず、芝刈りも夫と競争のように精出したものです・・・2、3年の間は。その後、芝の手入れにも少々あきが来ると、待つてましたかとはばかり、様々な植物が芝生の中に芽を出して来ました。中にはネジバナやスマレのような可憐な花を咲かせるものもあり、そっとしておいてやりたい気持ちと芝刈りの面倒臭さが一緒になって、手入れを放置し芝はかなりひどい状態になりました。

丁度その頃、勤めていた高校が現在の場所に移転することとなり、校内の必要な機材や植木を新校舎の方へ運んだ後、「残っているもので欲しいものがあれば捨てるまでの間にお持ちください」といわれ、校舎の隅に毎年顔を出していたウド、ホホヅキ、アヤメ、イチゴなどを持ち帰りました。持ち帰った植物は、芝やその他の植物とできるだけ競合しないように植え付けました。すべて根付いてくれましたが、その後の展開はさまざまです。

イチゴは1年後に実をつけたものの、その後の手入れが悪かったのか絶えてしまいましたが、他の3種は現在も尚、健在です。ウドは増えもせず減りもせず、ホホヅキは一時庭の半分に勢力を伸ばし赤い実がきれいでした。アヤメは、最初庭の東の隅にひっそりとしていましたが、今では、かつてホホヅキが栄えていたところへ侵入して来ています。

かつての芝生、特に東半分は完全に雑草園に姿を変え、春先にはタンポポが一面に咲き、続いてシロツメクサ、ハルジオン、ヒメジオン、ジシバリなど、抜き捨ててもきりがない植物が次から次へと我が世の春を謳歌したあとは、エノコグサ、オヒシバ、カヤツリグサなどが庭をおおいます。雨と日差しで丈高く育った草を喜んでいるのが我が家の女王様、三毛猫のミイです。ペットショップにネコグサの種など売っていますが、そんなものよりも自然に生えた草、特に双子葉植物が気に入っているらしく、草むらの中に入って葉をかじり、涼しいところでひっくり返ってなでることを要求します。ミイの要求に応えながら思うのです。来年こそは、雑草園から脱却してやろうと。多分来年の今頃も同じことを思っているのでしょうか・・・。

(20-127 角田寛子)



友の会視察研修旅行のお知らせ

今年度の友の会視察旅行は、「柏木博物館」並びに「尖石縄文考古館」（長野県）を予定しています。期日は、11月2日（日）です。募集案内は後日発送しますので、ぜひご参加ください。定員は50名です。応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。

柏木博物館

柏木博物館は「化石の博物館」、また「鉱物の博物館」ともいわれています。世界の化石や鉱物が展示され、46億年前に地球が誕生してから人が生まれるまでの驚きと神秘を紹介しています。たくさんの化石や鉱物、工芸品を楽しめる素敵な空間が広がっています。

尖石縄文考古館

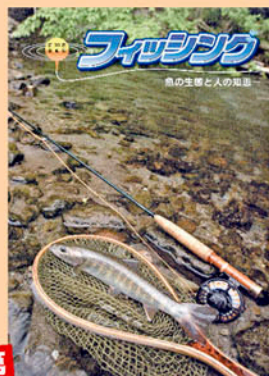
尖石縄文考古館は、美的感覚の優れた国宝「土偶」（縄文のビーナス）を中心に、たくましい力動感あふれる豪壮な土器や黒曜石で作られた精巧な石器など 2000 点余りの縄文時代の遺物を展示しています。また、縄文文化の研究や体験学習の施設として、観光や家族の憩いの場として広くご利用されています。

出版物の紹介



「昆虫をかんさつしよう」

一般・会員 50円



「フィッシング
-魚の生態と人の知恵-」

一般 500円 会員 450円

第30回企画展

2月までの友の会主なイベント

11月2日(日)

友の会視察研修旅行

場所 「柏木博物館」並びに
「尖石縄文考古館」

1月25日(日)

天体観望会

場所 自然史博物館屋上の
天体ドーム

2月22日(日)

冬鳥観察会

場所 富岡市丹生湖

賛助会員

(8月末現在) 以下、法人・個人の方に趣旨賛同いただきました。ありがとうございました。

- 富士ゼロックス群馬(株)(1口)
- 群馬トヨタ自動車(株)(1口)
- 原株式会社(1口)
- (株)藤井繊維(1口)
- (株)糸庄(1口)
- 野口会計事務所(1口)
- 齋藤紀恵子
- ブリヂストンタイヤ高崎販売(株)(1口)
- 高崎ビューホテル(株)(1口)
- (有)市川会計事務所(1口)
- 佐藤春利(1口)
- (有)山田会計(1口)
- 青木道雄(1口)
- 富岡ロータリークラブ(1口)
- 高崎冶金工業(株)(1口)
- 川原英雄(1口)
- 若草印刷(株)(1口)
- 木村プラスチック工業(株)(1口)
- システム・アルファ(株)(1口)
- 黛麻衣子(1口)

編集後記

最近、新聞の科学欄でシーラカンスやナメクジウオが特集記事として、相次いで取り上げられているのを見掛けました。生物進化の謎を解く上で、これらの生物がなぜ重要なのかは、自然史博物館の展示物がヒントを与えてくれるものと思います。生物進化について、様々な研究が進められていますが、依然として謎だらけです。博物館で進化の謎の海に浸ってみるのも一興ではないでしょうか。
(友の会通信編集委員 森平利政)